



2021・3・11

第 403 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

コロナ禍にまぎれた改憲の企て許さず

独自リーフ地域配布に取り組む

【神奈川県生田区／生田九条の会】

昨年6月の運営委員会で提起されて制作を進めてきた生田九条の会の大型リーフレット「コロナ禍にまぎれて改憲発議!?!」がようやくできあがりしました。さっそく仕分けし地域で配っていただくため賛同者の皆さんに届けたところ、希望される数が多く、15,000部が数日でなくなり、2,000部を追加発注することに♪

リーフは「生田九条の会ニュース」に同封し、また定例の駅頭宣伝でも配布します。カラフルな表紙が目につくのか、2月9日、19日の宣伝での受け取りは上々です。(ニュース係の印象)

運営委員各氏の配慮が起きた今回のリーフレット、大いに活用して対話を広げ、地元生田から改憲ストップの世論を高めることにつなげたいもの。ということで、皆さんの体験を伺いました。

ポスティングを終えて

百武郁子(南生田在住)

普段ぶらぶらと歩いてはいたものの、こんなに丁寧に近所を回ることは、このポスティングをするまでなかった。やってみ

《新ブックレット—4月上旬発行予定》 「菅政権の成立と改憲問題の 新局面—改憲発議阻止のために」

九条の会事務局が主催した2月17日の学習会の内容がブックレットになります。

◇ 内容

- ・布施祐仁「バイデン政権の成立と日米軍事同盟の強化～第5次アーミテージ報告にもふれて」
- ・前田哲男「敵基地攻撃能力保有策動の狙いと憲法9条」
- ・小沢隆一「学術会議会員任命拒否問題の現状」

◇A5版 70 頁程度 予価 500 円 (〒別)
(10 部以上 8 掛)

て気がついたことを少し書いてみよう。

地図では空き地だったところにびっしりと家が建ち、ついこの間まで売れ残っていた家にも人がはいて、持たされていた130部は途中でなくなってしまった。空き家も増え続け、少子化も進行しているというのに、この南生田はよほど人気があるのか。

もう一つ。郵便ポストが高い階段を上っ

た先の玄関脇にある家が時々ある。これは新聞配達や郵便配達の人たちにとっては、毎日余計な労働を強いられ、さぞや迷惑だろう。ご本人たちは気がついているのだろうか。

最後に。内容の濃いリーフレットだが、何人の人が手に取って、しっかり熟読してくれるのか、ちょっと気になるところである。

「中国脅威論」と会への信頼を実感

G (麻生区在住)

「コロナ禍にまぎれて改憲発議!？」のパンフを手渡しすることによって、中国脅威論の浸透を実感できました。中国が日本の水源地をもうだいぶ買っている。購入者の表向きは日本人でも、裏にいるのは中国人。

「日本の美味しい水を守らないと」とか、「東京オリンピックの後、経済が急速に悪化する。安くなった土地や日本企業をその時大量に買い占めるのが中国だ。だからそうなる前に、オリンピック開催準備中の今から、それを防ぐ法整備をしないと、という識者からの意見がネットに出ている」等です。コロナ禍の急速に進行しつつある中では、中国への警戒心が一層高まっています。

だから米国の傘に入って、中国を牽制しようというのが改憲支持派の見方ですが、中国の経済成長がこのまま続けば、米国と日本がひとつになっても到底敵わない軍事力を、中国はあと30年程で持てる、という見方もあります。軍事力を競うことには際限がありません。5兆円を超える軍事費の支払先は、米国だけでなく日本の大手企業も含まれているのではないのでしょうか。軍産学複合体による軍需品の開発研究に従うよう、菅政権は学者研究者に圧力をかけ続け

ています。

近所の方が「あと10枚パンフちょうだい。友達が生田9条の会ファンなのよ」と言って手を差し出してくれました。地域に根ざし長く活動を続けてきた会への信頼が感じられたひとときでした。

(「生田9条の会ニュース」第85号)

市民と野党の共同で政権交代を

【香川県／香川9条の会・香川県革新懇】

香川県の9条の会と革新懇とは6日、政権交代を求めて高松市で集会を開きました。

「危機のりこえあたらしい政治を」などの手づくり横断幕やプラカードを手に、40人が参加しました。

リレートークで、立憲民主党の竹本敏信幹事長、日本共産党の秋山時貞県議、新社会党の井角操県本部委員長、社民党の三野ハル子県連代表、市民派の植田真紀市議と香商連の明珍豊事務局長が訴え。特別給付金の再支給を野党共同で国会に提案したことや政治と利権の問題について思いを述べ、「市民と野党の共同で政治を変えよう」と呼びかけました。

参加者の男性は「(野党共闘で)四国から自公政権を倒したい」と語りました。

沖繩のたたかいに学び連帯

【東京都足立区／千住九条の会】

2月28日「県民投票から2年 辺野古の現状と今後の課題」を開催。

千住九条の会は、「県民投票」元代表の元山さんを2019年県民投票後の講演会に沖繩からお招きした際、「区議会に陳情を行ってほしい」との訴えがあったことに応え、

その年の12月に「辺野古の基地を考える in 足立」を結成し、その後駅前での署名行動や集会、区議への要請行動、議会への陳情を行い現在、継続審議中です。

その報告も兼ねミニ講演とパネルディスカッションを開催しました。

元山さんは、はじめに日本に「民主主義」はあるのか、基地は軍事的に沖縄でなくても良いにもかかわらず何故政治的に沖縄なのかと問われました。県民投票で7割の反対があったにもかかわらず、現在も工事は続けられ、辺野古新基地建設をめぐる訴訟や議論、選挙が行われ、工事関係者のコロナ感染者を出しながら今も工事は続いている。昨年11月、米CSISのマーク・カンシアン上級顧問が「辺野古新基地建設」の完成を困難視する報告書を公表。今年1月25日付沖縄タイムス・共同通信が「辺野古に自衛隊常駐・極秘合意」と報道、27日に岸防衛大臣が「計画図はあった」と答弁。政府は沖縄の声に寄り添うと言いながら工事を進めている。遺骨を含む土砂が大量に使用されるかもしれない、使用計画を断念するよう政府に抗議のFAXをお願いしたい、辺野古に行ってほしい、選挙で基地問題に関心があり具体的な取り組みのできる議員を当選させてほしいと訴えました。

講演後のパネルディスカッションも共に議論でき有意義な集会となりました。元山さんのお話にご責任を痛感し沖縄の問題は日本全体の問題と捉え、沖縄に連帯し自分自身が考え行動したいと強く思いました。

（「千住九条の会」 中田 順子）

戦争法廃止訴え3団体で宣伝

【宮城県／みやぎ憲法九条の会・戦争政策反対連絡会・野党共闘で安保法制を破棄するオール宮城の会】

「みやぎ憲法九条の会」、「戦争政策反対連絡会議」、「野党共闘で安保法制を破棄するオール宮城の会」の3団体による2月の19日の行動は仙台市青葉区中央通東二番丁角でおこなわれ15名が参加。横断幕が長いので、通行者の邪魔にならないように通常は交差点角にマイクを設置しての宣伝でしたが、今回は歩道のFUJSAKI側にマイクを設置しての宣伝となりました。チラシを250枚配布し、署名を35筆いただきました。3団体よりそれぞれ訴えがありました。

小学生「平和の鐘つき」作文受賞

【埼玉県東松山市／東松山九条の会】

以下の作品は毎年行われる、東松山市主催の「花とウォーキングのまちの平和賞」で応募された作品で本年度最優秀賞を受賞された作品です。

尚この中で言われている「へいわの鐘つき」は今年も「東松山九条の会」主催で開催する予定です。（「東松山九条の会ニュース」N076）

《定宗寺で聞いた話》

8月6日、石橋の定宗寺（つりがね寺）で、平和の鐘つきという集いがありました。母がさそってくれたので、私は面白そうだなと気軽な気持ちでゆきました。

その集いの中で、先代の住職さんが戦争中の体験を話してくれました。

「旧制松山中学校（現在の松山高校）の時、勤労働員で川越の工場に働いていました。東京大空襲があった時も私は川越にい

ました。空が真っ赤にそまり、まるで近くにいるようでした。炎の光で、自分のかげがかべに映ったほどでした。」

この辺りまで話を聞いて、私は「気軽な気持ちで聞いてはいけないものだな」と思いました。さらに古い地図をみせてくださったり、日本が中国や朝鮮へしん略した話をしてくださったりしました。(中略)。

日本がこの東京大空襲で降伏していれば、この後に起こった沖縄戦、広島や長崎の原爆はなかったかもしれません。それぞれの被害者は約20万人、16万人、7万人だと資料で見ました。合計43万人の方が亡くなることは、なかったかもしれません。

戦争とは、相手国の歴史や文化をこわして人の心をことごとくふみにじります。住職さんは、核兵器を持ったり、軍事力を強くしたりしても平和はつくれないとおっしゃいました。私はなぜそうなのか考えました。どこか1つの国が核兵器をつくると、それに負けないようにと、他の国ももっと大きな核兵器を作り、結局は核兵器の作りあいになります。大きな核兵器をおたがいを持っていると、それぞれが相手の核兵器におびえるような生活になると考えました。

世界を平和にするためには、戦争や核兵器をなくさなくてはなりません。争いをなくすためには、他国の歴史や文化を学び、理解し、尊重しながら、交流を深めればよいと思います。交流するには、言葉も必要です。これからの私達にできることは、歴史や文化、言語を深く学ぶことだと思います。 青小学校6年 篠田 華

「9条世界宗教者会議」開かる

3月2、3の両日、宗派の違いを超えた世界の宗教者が、日本国憲法9条の精神で平和を考える7回目の「9条世界宗教者会議」が集会実行委員会の主催、オンライン方式で開催、16カ国から約160人が参加しました。

集会では実行委員長の渡辺信・日本キリスト教協議会議長が、「日本国憲法9条を世界平和の象徴として、戦争参加を促すようないかなる改憲にも反対しましょう」とよびかけました。

ビデオメッセージでは、「信仰を持つものは暴力の根源を明らかにし、紛争防止、人類の防衛と創造のため責任をとらなければならない」(カナダ合同教会)、「信仰を持つ友人として友情を分かち会えたことを感謝します」(韓国・米国長老派教会東アジア連絡会)、「日本は非暴力の手段で平和の大使として貢献できるユニークな存在」(タイ・連携仏教徒国際ネットワーク)などの発言がよせられました。

小林武沖縄大学客員教授が「平和憲法9条と沖縄」と題して基調講演。日本山妙法寺僧侶の鴨下祐一さん、韓国平和ネットワーク代表のチョン・ウンシクさんが発題しました。

この集会は2007年11月～12月に9条アジア宗教者会議としてアジアや世界における宗教指導者の参加・協力のもと、東京の在日大韓YWCAで開催され、第2回をソウルで、第3回を沖縄で開催されました。第4回以降は名称を現在のものに改め、東京で開かれています。今回は沖縄で開かれる予定でしたがコロナのためインターネットでの開催となりました。